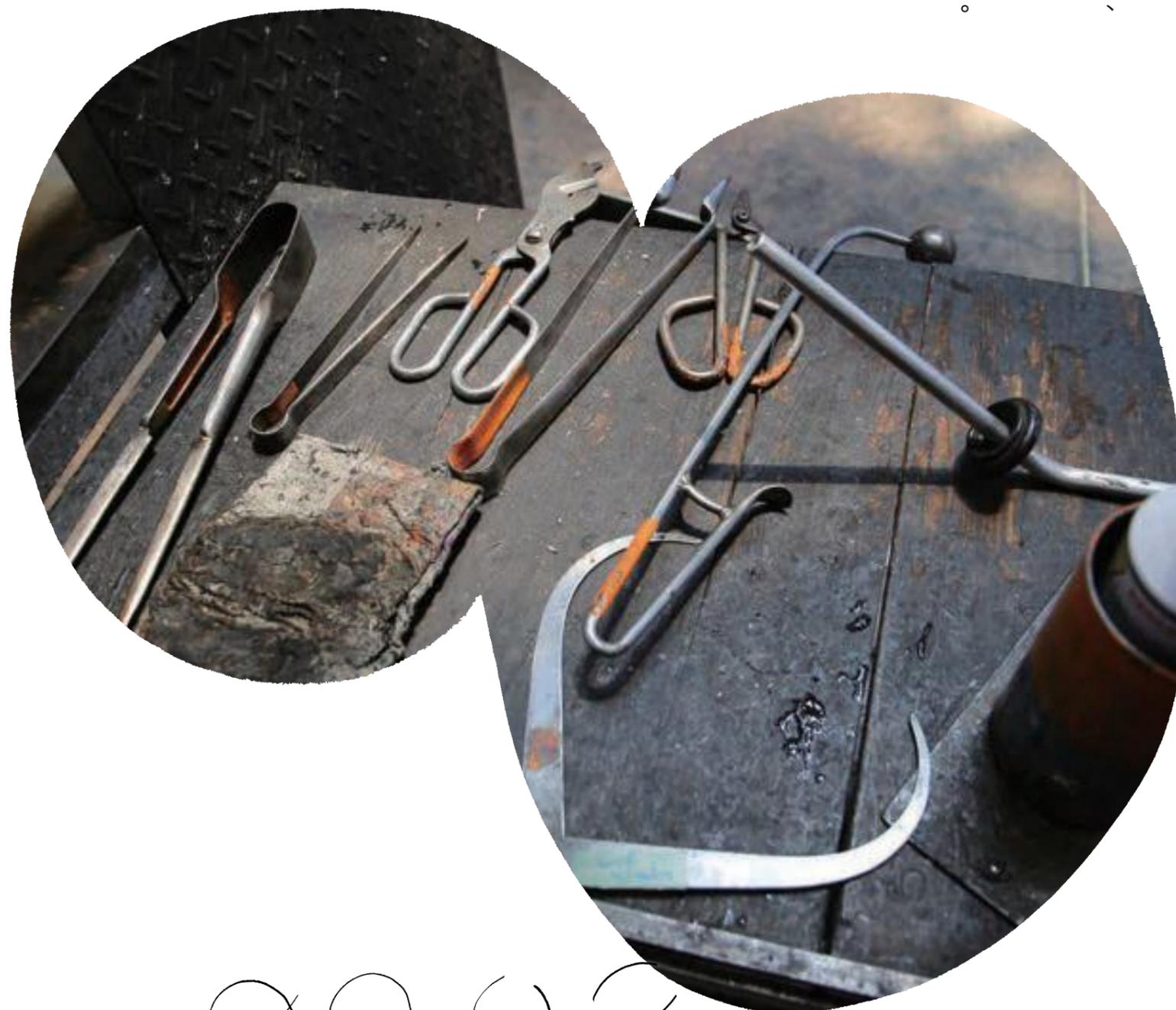


まだ知らない、  
わたしと  
ガラスの世界。



富山ガラス造形研究所  
Toyama Institute of Glass Art  
〒930-0143  
富山県富山市西金屋80番地  
TEL 076-436-2973  
FAX 076-436-2974  
e-mail: tigainfo@toyamaglass.ac.jp



2023

<https://toyamaglass.ac.jp>



Instagram | [tiga\\_glass](#)  
YouTube | [toyamainstituteofglassart7418](#)



富山ガラス造形研究所 Toyama Institute of Glass Art

# TIGA

ごあいさつ

刺激を与えられるような  
カリキュラムが充実



所長 恒川 哲二

当研究所は、プロのガラス造形作家の育成を目的として1991年に設立され、本年で33年目を迎えています。この学校の特徴は、指導する教授陣が充実していること、設備が整った環境の中で、ガラスの専門教育を学べること、2名の外国人教師による指導や著名な海外作家によるワークショップ、交換留学制度など海外との交流が盛んであること、さらに様々な分野の講師による特別講義など、常に学生に刺激を与えられるようカリキュラムを充実させてきました。580名余りの卒業生の多くは、プロのガラス作家として国内のみならず海外でも活躍しており、教員や卒業生はもとより、在学中の学生達も国際ガラス展や公募展などで数多くの受賞実績があります。

富山市では、「ガラスの街とやま」をまちづくりのひとつの柱として掲げ、約30年をかけてガラス芸術の振興に関する数々の施策を展開し、本研究所や富山ガラス工房、アーティストハウスの整備を行い、さらに2015年にはガラスの街づくりの集大成として、富山市ガラス美術館が開設され、ガラスの街にふさわしい環境ができており、「ガラスを総合的・専門的に学ぶなら富山で…」と、海外留学生を含め今年度は41名が学んでいます。

現在、当研究所では、これまでの教育活動の成果を踏まえつつ、多様化するガラス造形や芸術・文化の潮流に対応できるガラス教育を提供できるよう、造形科、研究科の授業科目・カリキュラムの改編に向け準備を進めています。\*

学生の皆さんが、ガラス造形の専門的知識や技能を習得し充実した学生生活を送ることができるよう、私たち教職員一同、支援し見守っています。本気でガラス作家を目指す、意欲あふれる皆さんの入学を期待します。

高度なガラスアート  
専門教育機関として  
世界から注目



主任教授 本郷 仁

日本初かつ唯一の公立ガラスアートの専門教育機関、それが富山ガラス造形研究所です。ここでの2年間のカリキュラムは、ガラス工芸に関する様々な技術の習得と素材を活かした造形表現の学習、そしてガラスの新たな可能性を研究する内容となっており、密度の高い専門教育を特徴としています。造形科では、各種のガラス技法を基礎から学び、それをういた造形表現やより高度な技法の習得を可能とし、研究科では、各自の研究テーマに基づいて技法と素材の新たな可能性を追究し、ガラス作家としての自立を目指して個性ある作品の研究制作を行います。42名という小規模な学校でありながら、外国人教員2名を含む5名の常勤教員と5名の教務助手、さらに制作アドバイザーと非常勤講師のほか、特別講師、講評会講師を学外から招くという充実した教育体制により、当研究所は高度なガラスアート専門教育機関として世界に注目されています。

また、研究所へ入学してくる学生達は、皆それぞれの夢を抱いて全国から集まり、ここで2年間学んだ後にそれぞれの道へ進みます。高度な手業を持つ工芸作家を目指す者、ガラスを素材とする造形作家を志す者、日常の生活を彩る器を制作する者、建築やインテリアなどの空間をデザインする者など、その進路は実に多彩ですが、卒業生達は当研究所で過ごした時間を夢の礎として、国内外の様々な分野で活躍しています。こうした卒業生の活動もまた、研究所を支える財産となっています。

ガラスが造形素材として日本の教育に登場してから、まだ40年余りしか経っておらず、現代ガラスの可能性はまだ未知数です。また今日の世界は大きな変化の途中にあり、ものづくりの意義も見直されています。今この時代に自分たちの未来をガラスに託し、それぞれの夢を追い求める当研究所の学生たち。私たち教職員一同は、その学生一人ひとりの夢が実現するよう、全力でサポートしてまいります。

\*2025年度の造形科・研究科の授業科目・カリキュラム改編を予定しています。詳細は決まり次第、研究所ホームページでお知らせします。

わたしとガラスの  
未見に出会う。

# 造形科

多彩な表現力や造形力を養う



**1**年

ガラス造形に必要な基礎的な理論及び技法を学習。  
デッサン・デザイン等の基礎の造形教育を重視します。

**2**年

個性・創造性を伸ばすことを主眼に、選択科目の中で  
自主的な制作を通して多彩な表現力や造形力を養います。

## 造形科の授業

### ホットワーク Ⅰ・Ⅱ HOTWORK

担当：ボイド・スギキ Boyd Sugiki、中神 牧子 Makiko Nakagami

一年次では、タンブラー、シリンダー、ボウル、ボトルなど、さまざまな形を形成するために必要な基礎を身につけます。共同制作などを通して、技術の習得と向上に取り組み、オーバーレイやケイン、チューブ制作では、さまざまな色ガラスの扱い方も学びます。一年次で学んだ吹きガラスの基礎から、二年次ではそれを発展させ高めていく場になります。デモンストレーションを見ること、課題を通してアイデアを広げ、リサーチや実践、実験を行い、新しい可能性も探っていきます。また独自の作品を制作し展示をすることも学びます。

※2025年度から二年次はホットワークまたはバーナーワークのどちらかを選択することになります。



### キルンワーク Ⅰ・Ⅱ KILNWORK

担当：松藤 孝一 Koichi Matsufuji

一年次は、キルンワーク（電気炉でガラスを成形する作業）の基本的な技術を学びながら、ガラスの特性を見つけていく作業になります。二年次は、初年度で学んだキルンワークの技法やガラスの特質をもとに、自作品のオリジナリティを追求していきます。グループディスカッションや校外学習を通して様々な角度からガラスの作品化を目指します。

※二年次はキルンワークまたはコールドワークのどちらかを選択することになります。

### コールドワーク Ⅰ・Ⅱ COLDWORK

担当：ヤロスラフ・シャーラ Jaroslav Sara

このコースは、コールドワークの技術を基本に、美術や工芸を勉強することができます。学生は、授業の中でガラスのカット、研磨、サンドブラスト、接着を学びます。また課題の中で、吹きガラスやキルンワークなどの作品と組み合わせることもチャレンジします。学生は、課題に取り組みながら、創りたい作品のデザインを学び、そして技術の習得だけではなく、自己の作品を完成させることに重点を置きます。

※二年次はキルンワークまたはコールドワークのどちらかを選択することになります。





学習期間2年間の中で  
密度の高い  
専門教育を行います。

## 基礎造形 FOUNDATION

### 平面

担当：西 治子 Haruko Nishi

もし自分を「物」で表すとしたらどんなものになるでしょうか。象徴または記号化の試みです。身の回りにある「特別な」物を描くデッサン、自分のための選りすぐりの色見本を作る、心引かれる形を収集する。自由な発想を大切に、感じた心を確かな表現で伝えることができるように課題を構成しています。



### 立体

担当：加治 晋 Susumu Kaji

立体表現の美的要素を体系的に理解、習得するための導入部として、前期は「自然」をテーマに粘土、石膏の塊材を使用して、基本的な造形の探求を行います。後期は素材を主体的に選択する自由制作により、表現技術と素材の美的認識を深めていきます。



## ガラス材料学 GLASS MATERIALS

担当：吉野 徹 Toru Yoshino

この講義では、材料学の研究者の視点から物質としてのガラスを学ぶことができます。「ガラスとは何か」というような分子構造の疑問から建材や工業製品のガラスに至るまで、最古の人工素材と言われるガラスの魅力に迫ります。  
※隔年の開講になります。



## ガラス工芸史 HISTORY OF GLASS ART

担当：畠山 耕造 Kouzou Hatakeyama

この講義では、ガラスの起源から現代ガラスまで、幅広くガラスの歴史を学ぶことができます。時代を切り開く斬新な発想や、それを支える技術の展開をたどることで、現代の作り手に何か制作上のきっかけがもたらされることを期待します。  
※隔年の開講になります。



## 選択科目

ELECTIVES

## 金属加工

担当：中村 満雄 Takio Nakamura

金属は塑性を有し、加熱すれば変形が容易になり、冷却あるいは加工硬化させれば強固になります。その素材に切削・切断・曲げ・打撃などの加工を施し、さらに溶接をして接続していけば多彩な造形が可能となります。また金属独特のマチエールを発見し引き出すことによって独自の造形作品として実現させることが可能になります。特に近年、溶接は金属の造形に不可欠な手法であり、ガラス造形の表現域をも広げるツールになります。  
※2024年度まで開講になります。

## ジュエリー

担当：森田 弘美 Hiromi Morita

ジュエリーの制作は幅が広く奥深いものです。最初の課題では彫金の基本である、糸鋸、ヤスリ、そしてロウ付け作業を総合的に学べるように、ペンダントを制作。次に銀を使い指輪を制作し、合間にキャストや七宝焼の技法も学びます。最後は自由制作として古典的なデザインから、現代的なものまで、今後の各自のテーマとなりうるような、独自の世界観を自由に表現することを目指し、修了制作としての集大成を発表してもらいます。  
※2024年度まで開講になります。

## ステンドグラス

担当：八田 禪 Zen Hachida

言葉としてよく知られているステンドグラスは、鉛の影と透過する色ガラスの組み合わせと、技法をベースに認識されています。ここではそのガラス素材自体の追求、それから派生する技法の可能性、そして深く関わりを持つ建築空間での統合要素としての在り方について実習し、最終的に意義のある自己表現との接点を探ります。  
※2024年度まで開講になります。

## バーナーワーク

担当：小曾川 瑠那 Runa Kosogawa

酸素バーナーとホウケイ酸ガラス（耐熱ガラス）を用いてどのような事ができるのか、技法と機材の知識を習得しながら、素材に対する理解度と探求心を深めていきます。また、「バーナーワークと他技法の組み合わせ方」「ものが置かれる状況や場所の考察」「異分野の人物」等に触れることで、アイデアの発見と展開を促します。対話を通して各々の出力の幅を広げる方法を模索し、創造することの楽しさを共有したいと考えます。  
※2026年度から必修になります。

# 研究科

作家としてのオリジナリティの確立



担当教員の指導、助言を得ながら各自専攻テーマを設定し、立案した研究計画に基づき制作します。プロとしてのオリジナリティの確立とプレゼンテーション能力の向上を目指し、定期的に全教員と研究科の学生と合同で作品の検証を行います。

**1**年

研究科1年次は各自の研究テーマに基づき、作品の検証とアイデアの展開を進めていきます。

**2**年

研究科2年次には、作品のオリジナリティをより深め、修了制作へと進んでいきます。

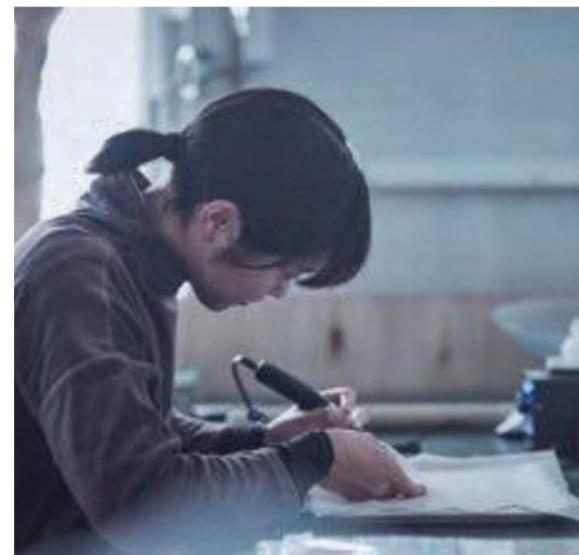


## 研究科の授業

### 応用造形 APPLIED MODELING

担当: 本郷 仁 Jin Hongo

このクラスは研究科一年生のために設けられました。制作と批評のもととなる様々なテーマについてリサーチし、各自の制作についてより深く考えます。また制作実習では、様々な素材による造形演習をもとに、視覚言語としての造形基礎を学んでいきます。



### 研究 I・II・III RESEARCH

研究科では、5人の教授陣の指導のもと、一年次は各自の研究テーマに基づいて、作品の検証とアイデアの展開を進めていきます。二年次には作品のオリジナリティをより深め、修了制作へと進んでいきます。学生1人に対して1名の教員がチューターとして常に指導を行い、その担当教員を中心に教授陣が作品のアイデアから技術的な面までサポートをします。また、定期的に各教授陣の専門講義も組み込まれています。渋谷良治制作アドバイザーによる助言も適宜、行っています。

# 全学共通の学びと制度

## ワークショップ WORKSHOPS

### 年2回、国内外の著名なアーティストと制作する一週間

幅広い視野とグローバルな技術や考え方を身につけるために、現在国内外で活躍している著名作家を招聘して、春と秋に1週間のワークショップを行っています。ガラスに限らず多様な分野で活躍している作家と触れられる、貴重な機会になっています。

令和4年度 ワークショップ講師  
有永 浩太 (ガラス作家)、カースティ・レイ (ガラス作家)、  
鈴木 昭男 (サウンドアーティスト)、宮北 裕美 (ダンサー)



令和4年度 ワークショップ講師 宮北裕美氏 鈴木昭男氏

## 特別講義 SPECIAL LECTURES

### 様々な分野のアーティストによる特別講義

広く見聞を深める目的で開講する特別講義は、現代アート、建築、彫刻、デザイン、陶芸等、ガラス以外にも様々な分野で活躍されている方を招き、2時間程のライドレクチャーを行っています。通常の授業では補うことのできないガラスの各種技法や、新しい表現方法、当研究所の卒業生の活動等も、この講義を通して紹介します。

令和4年度 特別講義講師  
KANA TANAKA (ガラス作家)、宮路 雅行 (アートインストーラー)、玉山 拓郎 (現代美術家)、  
今村 源 (現代美術家)、増田 敏也 (デジタル陶芸家)、岡村 喜知郎 (写真家)、  
リサ・ゼルコヴィッツ (ガラス作家)



令和4年度 特別講義講師 宮路雅行氏

## 講評会 CRITIQUES

### 特別講師を招いて真剣な講評会

前期と後期の締め括り、そして卒業制作展の講評会に、当研究所5名の教授陣の他、外部より特別講師を招き、講評をしていただいています。この講評会では、いろいろな意見をいただき、次の作品制作に向けての指標にしていきます。

令和4年度 講評会講師  
藤原 彩葉 (ガラス作家)、山本 浩貴 (文化研究者、アーティスト、金沢美術工芸大学講師)、  
中川 佳宣 (現代美術家)、武田 厚 (美術評論家、富山ガラス造形研究所顧問)、小曾川 瑠那 (ガラス作家)、  
菊池 裕子 (金沢美術工芸大学教授)、鈴木 康広 (アーティスト)



## アーティスト・イン・レジデンス ARTIST IN RESIDENCE

現在13回目で、国内外で活動するガラス作家を公募し、約1ヶ月半、富山に滞在しながら作品を制作します。また、その滞在期間に一般向け公開講座や学生を対象とした講義などを通して、地域や学生との交流を図ります。レジデンスの後半、富山市ガラス美術館で個展形式の成果発表を行います。富山の自然豊かな環境の中で制作に取り組む事ができ、その成果は滞在期間終了後も作品として富山ガラス造形研究所に残っていきます。



令和4年度 レジデンス作家 リサ・ゼルコヴィッツ氏

## 卒業制作展 GRADUATE EXHIBITION

平成27年度より、卒業制作展を富山市ガラス美術館で行なっています。学生は、2年間の集大成として、ガラス作品を展示します。毎年、展示作品の中から優秀賞や特別審査員賞などが与えられます。令和元年度からは、卒業制作展記念講演会を開催し、昨年度は、金沢美術工芸大学芸術学-SCAPe専攻教授の菊池裕子氏、アーティストの鈴木康広氏を招き、講評会と特別レクチャーを行いました。また、9日間の展示期間に3,692名の方がご来場されました。

## 校外授業

校外学習では、それぞれの学年やクラスで、その専門分野の展覧会や工房などを見学します。

## 学外展示授業

研究所では、授業の一環として、学生主体で展覧会の企画から展示作業までを学びます。この経験が、卒業後の作家活動の手助けになります。

## 地域連携授業

平成30年度に、スタジオジブリと富山ガラス造形研究所の学生や教員が、富山市ガラス美術館展覧会「ジブリの大博覧会」のガラス作品(灯籠)を共同で制作しました。

## 研究生制度

リサーチ・スタディー(研究生)は1年、6ヶ月、3ヶ月の中から期間を選択し、ガラス制作の研究を行うことができます。出願資格は富山ガラス造形研究所研究科を卒業した方、またはこれと同等以上の技術及び知識を有すると認められる者で、ガラス作家として2年以上の経験を有する方になります。

※年度によっては募集していないこともあります。

## 交換留学制度

研究所では、提携大学の協力により、交換留学制度を設けています。選ばれた学生は、約3ヶ月間、海外でガラスを学ぶことができます。

※年度によっては募集していないこともあります。

提携大学  
国立大学キャンベラ美術学校 (オーストラリア)  
プラハ美術建築デザイン大学 (チェコ)  
ヘリットリートフェルト大学 (オランダ)  
リベレツ工科大学 (チェコ)

## 海外研修助成金

海外では、数多くの短期ワークショップが毎年開催されます。学生は、夏休みを活用してそのワークショップに参加することができます。選ばれた学生は、提携校から助成金を得て、海外でガラスを学ぶことも可能です。

提携機関  
アーバングラス (アメリカ)  
コーニングガラス美術館 (アメリカ)  
ビルチャックガラス学校 (アメリカ)  
ヘイスタックマウンテン工芸学校 (アメリカ)

### ワークショップや特別講義がとても刺激的

入学したきっかけは 多摩美術大学でガラスに魅了されガラスによるアートや工芸などのジャンルを超えた表現をもっと探究したいと思い進学を考えました。より新たな研究ができるように違う環境で制作したかったので富山ガラス造形研究所を調べ、学校見学などに参加したところ、広い制作スペースや設備が整っており、大型作品の制作がしやすいと思い進学を決めました。



[CIRCULATION]

研究所に入って 作品の発表の場や仕事が東京の方が多いため移動が大変ですが、それ以上にガラスに集中できる環境があり、技術などより良いものを作るサポートをしてくださる先生方がいるので入学して本当に良かったなと思っています。また、他のジャンルの作家さんによるワークショップや特別講義がとても面白く刺激的で、考え方など自分の作品に活かせることが多いです。

将来の夢 アートの世界はもちろんのこと、一般の人でも認知している「ガラスアートと言えばこの人」、岡本太郎のような作品を見ればすぐ誰だかわかる作家になりたいです。そのために作品をより多くの場所やパブリックな場所で展示をし、自身とガラスのアートとしての知名度を上げていきたいと考えています。

### 朝から晩まで制作に没頭できる充実した時間



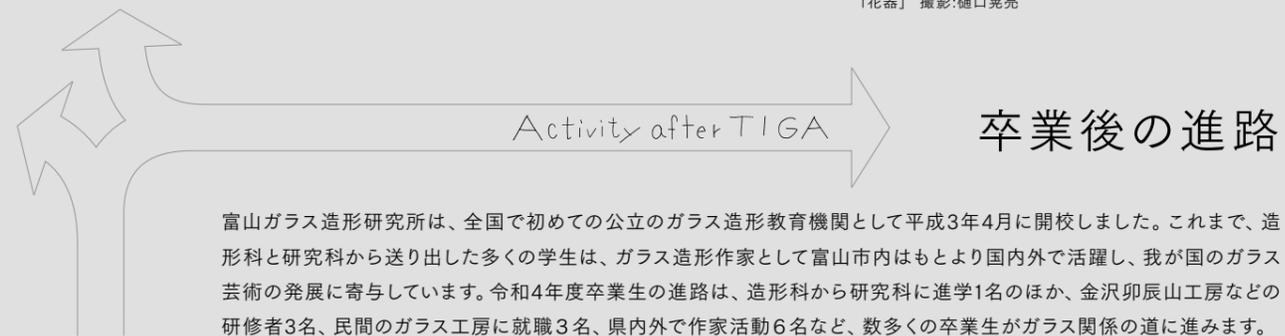
25歳で会社員を辞めてガラスの世界に飛び込んだことは、人生の大きな転機でした。入学前は服飾関係の仕事をしていましたが、ものづくりの一端に関わる中で、自分で手を動かして作品を完成させたい、憧れていたガラスという素材に挑戦したいという気持ちが大きくなり、富山ガラス造形研究所に入学しました。

研究所で過ごした2年間は、朝から晩まで制作に没頭できる本当に充実した幸せな時間でした。研究所では、自分の作りたい作品を実現するための、整った設備と先生や助手の方々の様々なサポートがありました。卒業して改めて、本当に恵まれた環境だったと実感しています。悩むことも多くありましたが、講演会での作品への意見や、同級生達との対話によって制作に深く向き合うことができました。その経験は現在の作家活動の大切な礎となっています。

卒業後は、硝子企画舎というキルンワーク中心のガラス工房に所属し、5年ほどシェアアトリエにて制作をしていました。その後独立して、現在は個人作家として全国のギャラリーやショップでの展示販売を中心に活動しています。作家として仕事をしていく中で、研究所での繋がりは今でもかけがえのないものであると感じています。



「花器」 撮影:樋口晃亮



# 教員

Faculty

海外講師を交えた  
各ジャンルの  
プロフェッショナルに学ぶ

富山ガラス造形研究所は、42名の学生に対して、5名の経験豊富な専任教授陣、8名の非常勤講師と制作アドバイザーが指導をしています。また、常時2人の専任外国人教師を迎えており国際色にも恵まれています。それぞれの教員が作家としても制作をしており、国内外で活躍をしています。学生は、その指導やアドバイスを受けると同時に、制作過程なども身近に見て勉強ができる環境が整っています。

常時5名の助手が担当の授業で学生の制作をサポートし、学生により近い目線で、授業の指導も行っています。それぞれの助手が作家として、国内外で活動をしており、若手作家として世界に羽ばたいています。学生は、卒業後の活動を身近に知ることができます。

顧問  
武田 厚（美術評論家、多摩美術大学客員教授）  
制作アドバイザー  
渋谷 良治（ガラス造形作家、富山市ガラス美術館顧問）



主任教授  
本郷 仁  
Jin Hongo

担当：応用造形、研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

1987 東北大学工学部金属加工学科卒業  
1990 東京ガラス工芸研究所研究科卒業



「融る境界」



主任教授  
中神 牧子  
Makiko Nakagami

担当：ホットワークⅠ・Ⅱ、研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

1994 愛知教育大学総合造形ガラスコース卒業  
1999 金沢卯辰山工芸工房研修者修了



「クシャクシャグラス」



准教授  
松藤 孝一  
Koichi Matsufuji

担当：キルンワークⅠ・Ⅱ、研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

1995 愛知教育大学総合造形ガラスコース卒業  
2001 イリノイ州立大学美術学部修士課程修了（アメリカ）



「世界の終わりの始まり」撮影：樋口俊太



准教授  
ヤロスラフ・シャーラ  
Jaroslav Sara

担当：コールドワークⅠ・Ⅱ、研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

2006 BcA, University of J. E. Purkyně,  
Faculty of Art and Design (チェコ)  
2009 MgA, University of J. E. Purkyně,  
Faculty of Art and Design (チェコ)

※2023年度から新任の先生になります。



「Der Tapfer」



准教授  
ボイド・スギキ  
Boyd Sugiki

担当：ホットワークⅠ・Ⅱ、研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

1991 Bachelor of Fine Arts,  
California College of Arts and Crafts (アメリカ)  
1996 Master of Fine Arts,  
Rhode Island School of Design (アメリカ)

※2024年度から新任の先生になります。

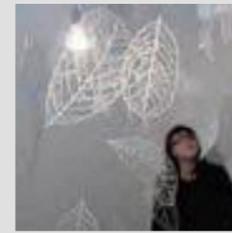


「Striped Bowls」

## 助手



天笠 夏美  
Natsumi Amagasa



「願い葉」



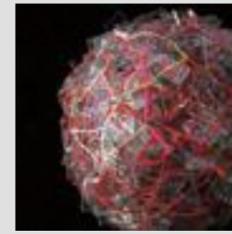
木村 珠里  
Juri Kimura



「200万年後より 001」



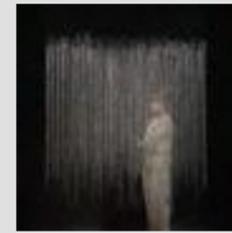
橋本 亜紗  
Asa Hashimoto



「Mercurial Heart」



廣瀬 絵美  
Emi Hirose



「in between」



吉積 彩乃  
Ayano Yoshizumi



「ICON #2010 Group」

# 入学案内

Application Guidelines

## ●設置学科

### 造形科

修業年限 2年／入学定員 16人

■入学資格  
高等学校卒業者及び卒業見込みの者、又はこれに準ずる学力があると認められる者。

### 研究科

修業年限 2年／入学定員 5人

■入学資格  
当研究所造形科を卒業した者、又はこれと同等以上の知識、技能を有すると認められる者。（※美術系の大学を卒業した者など）

## ●入学者の選抜方法（令和5年度）

造形科 —— 平面・立体実技試験/面接試験

※推薦入試はポートフォリオによる作品審査/面接試験  
※日程など詳細は学生募集要項をご確認ください。

研究科 —— ポートフォリオによる作品審査/面接試験

※日程など詳細は学生募集要項をご確認ください。

## ●授業料等

※令和5年4月1日現在

入学考査料	18,000円
入学科	富山市内居住者：135,300円 その他の者：169,200円
授業料	390,000円（年額）

\*奨学金制度（日本学生支援機構等）あり \*授業料減免制度あり  
\*学生用アパートあり（詳細はお問い合わせください）

●当研究所は、学校教育法第130条第2項の規定により認可を受けた富山市が設置した専修学校です。

●学生募集要項や入学願書は、250円分の切手を貼付の上、住所・氏名を記入した角2号封筒を同封して本研究所へ請求してください。



## ガラスの街とやま

富山市は、ガラスの街づくりに取り組んでいます。詳しくは、富山市ホームページ内「ガラスの街とやま」をご覧ください。 <https://www.city.toyama.lg.jp/>  
富山ガラス工房 <https://www.toyama-garasukobo.jp/> 富山市ガラス美術館 <https://toyama-glass-art-museum.jp/>